

天平勝寶二年六月廿四日

倉垣三倉

〔慈元抄上〕問曰、和歌の道孝道に似たらば、歌故に難を遁れたる人有や、答曰、○申或時西行道を行とて、物染る藍と云草、殖たる中をすぐ路にして通るとして、一本引切てもてり、藍主見付て、僻法師の振舞かな、藍を踏そこなふのみならず、折とるべしやとて搦捕て、手に持たりける藍を押へて食せたり、食ながら讀る。

西行は鶴といふ鳥ににたる哉繩にかゝりて鮎をくらへば、と讀りければ、面白し、扱は西行にておはしけるよとて、免しけるとなん、

〔雍州府志六土産〕藍 九條邊專種之、凡染家之所用、夏夷共需九條之藍、其染色青而麗也、

〔新撰字鏡草大青波止草〕

〔倭名類聚抄二十一大青〕 本草云、大青、和名波止久佐、一云久流久佐、

〔箋注倭名類聚抄十〕陶云、長尺許紫莖、圖經、春生青紫莖似石竹苗葉、花紅紫色似馬蓼亦似芫花、根黃、時珍曰、高二三尺、莖圓葉三四寸、面青背淡、對節而生、八月開小花、紅色成簇、結青實、大如椒顆、九月色赤、又曰、其莖葉皆深青故名、

〔重修本草綱目啓蒙十草〕大青 ハトクサ延喜式和名

大青小青ノ二條集解ニ說トコロノ草ハ、皆和產詳ナラズ、先師充ル所ノ說亦穩ナラズ、蓋シ古ヨリ方書ニ用ユル所ノ大青小青ハ、皆藍ノ葉ニシテ別ニ草アルニ非ズ、故ニ集解ノ說ハ今皆取ラズ、醫學正傳ニ、藍葉卽大青葉ト云、本經逢原ニモ藍實大青小青ヲ一條トシ、大青小青ヲ藍實ノ葉トス、宜ク此說ニ從フベシ、然レドモ其大小青ノ形狀ヲ說ニハ誤リアリ、從フベカラズ、大抵大小ヲ分テ言ハ、藍ニ二種アリテ葉大ナル者ヲ大青ト云卽菘藍ナリ、一名大藍葉小ナル者ヲ小青ト云、即蓼藍ナリ、一名小藍ニシテ、青ハ藍ノ字ノ書カヘト見ルベシ、又書ニヨリテ蓼藍ノコトヲ、大